

第3回八王子市歴史遺産活用検討会  
議事録

日時 平成31年1月29日(火)午後6:30～8:30  
場所 八王子市学園都市センター 第1セミナー室

配付資料について

- ・ NPO 法人八王子生涯学習コーディネーター会で八王子市生涯学習総合マップ5種類を作成した。こういうものがあれば市民の方や関心のある方のお役に立てるだろうと、会が1年前に自主的に企画し、完成した。地域支え合い事業として、社会福祉協議会から若干の補助金を頂いて、文化財課を始め、皆さまのご支援を頂いて作成した。「学習施設マップ」「文化財マップ」「史跡・旧跡・遺跡マップ」「水と緑のマップ」「戦禍・戦跡マップ」の5種類。主として所在地と行き方を掲載している。
- 市 コーディネーター会がまとめてくれた文化財マップには、指定のものだけでなく未指定のものも含まれており、文化財を幅広い視野で捉えたものになっている。実際に現地で確認しながら作成したと聞いており、大変な苦労があったと思われる。様々な面で活用していただけるとありがたいと思う。

(1) 八王子市歴史文化基本構想について(資料1、別紙1、別紙1-1、別紙2)

- ・ 別紙2の表中に「ホタル」という記載がところどころ見受けられる。最近あちこちでホタルが増えている印象がある。城山小学校の近くにもずっと前から細々と生息している。城山川にも最近ホタルが出るようになった。ホタルを専門に調べている団体があり、個人的に八王子のホタルのマップを提供して欲しいと頼んだところ、みなさんに知られるとホタルが乱獲されてしまう恐れがあるため、教えたくないという話もあった。自分の知っている範囲しかまだ調べていないが、「ホタル」は地域共通のキーワードでありそうなので、これから実態を把握していければと思う。  
→(市)市民参加の「地域の歴史文化」発見ワークショップでは、ホタルの他に、八王子に生息する稀少植物の話も出たが、情報を公開すると捕られてしまうという心配もあり、情報公開の難しさを認識している。
- ・ 旧八王子地区の特性として「千人同心を始め、多くの知識人いた地域」とあるが、千人同心は、日光の護衛、北海道開拓をした集団というイメージが強く、「知識人」という表現が適切か、やや疑問に感じた。
- ・ 知識人と言っていいと思う。例えば新編武蔵風土記や武蔵名勝図会といった地誌類の編さんや、桑都日記など、非常に優れた歴史的な書物を編さんしている。絵をかいたり、漢詩を作ったり、八王子の地域文化に大きな貢献をしている。  
→(市)千人同心について、日光勤番と北海道開拓で活躍したことは知られているも

の、学問的な面で活躍があったことは十分知られていないので、今回の構想の中で伝えていきたい。

- ・ 去年の郷土資料館の特別展で文化を担った人たちをテーマにしており、千人同心の活躍も扱っていた。横山地区のWSで挙げられた資源として「下原刀」と書かれているが、恩方あるいは元八王子地区ではないか。  
→ (市) WSで挙げられた意見であり、下原刀が作られた場所ではなく、恐らくこの地区に住む所有者の方が、宝として挙げたのではないかと思われる。
- ・ 下原刀の所有者が住む地区とすると、八王子全域が当てはまる。横山に分類すると、横山で作ったと見えてしまう。
- ・ 全体的に網羅されてきていると思うが、浅川地区の多摩森林科学園（桜の名所）、みこも霊堂の記載がないのが気になる。入れた方がよい。  
→ (市) みこも霊堂は微妙な位置で、住所は狭間で、横山地区に記載してある。絹の道もちょうど境目にあり、どの地区に当てはめるかは、ルールを決めて精査していく。小宮地区の大善寺のお十夜も、もともとは旧八王子地区にあった。寺関係は移転もあるが、基本的には現在の所在地で分類している。ただし補足説明は必要だと思う。本構想では文化財の活用を目指すところもあるので、現在の所在地で整理するのが良いと考えている。
- ・ 川口地区に「今熊神社の獅子舞」とあるが、今熊山そのものも重要だと思う。呼ばわり山とも呼ばれた。伝説も秘めた自然豊かな山として重要な資源と考える。加住地区の特性として、特に高月において「都内では珍しい広大な田園風景」と書かれているが、「都内で最大の農地面積を誇る」という表現の方が、価値がさらに伝わる。
- ・ 元八王子地区で入れておいた方がよいと思うものに、壺分方、式分方という地名がある。中世（鎌倉時代）に行われた所領分割の名残りが、そのまま現在の地名・町名に残っていることは大変貴重で、その時の所領分割に係る鎌倉幕府の裁許状も残っている。残念ながらその裁許状は八王子市にはなく、旧金沢藩主前田家の尊経閣文庫に所蔵されている。その裁許状には訴訟当事者の女性「是勝」の名がみえているが、その名前は、式分方のお堂の礎石に転用された五輪塔の一部（地輪）に刻まれている。「地名」「文献資料」「遺物」が揃って現地に残っているのは、全国でも稀有な例。残念ながら文化財未指定だが、指定しても良いのではないか。
- ・ 設定された関連文化群が市民にとって分かりやすいかという視点でみると「9近代の文化教育と自由民権運動」がよく分からなかった。近代文化教育と自由民権運動を並べて語るイメージがわきにくい。また、関連文化財群の中に近代が少ないと感じる。近代は市内の産業が盛り上がった時代で、それによって八王子のまちが発展したという歴史的な背景がある。地区の特性の中に挙がってこなかったから、関連文化財群として整理されないということがあるのか。  
→ (市)「織物のまち・八王子」のストーリーの中で、近代の産業化につながるよう

な展開も書いていけたらと思っている。例えば1の古代の遺跡のストーリーについても、古代だけの話ではなくて、想いや何かが、現代につながっているような視点を含めたストーリーを書いていきたい。時代時代の説明をするというよりも、その時代の出来事をきっかけに、現代に生きる人達に何を伝えたいかを考えたい。

- ・ 「9 近代の文化教育と自由民権運動」に関連する話として、武相困民党という集団があり、有名な秩父事件と同じような集団で、八王子周辺の貧しい人たちが御殿峠に集まって豪商を襲おうとして、鎮圧されたという話が残っている。文学者・北村透谷がしばしば恩方を訪れ、自由民権家と交流があったと言われている。絹の道資料館周辺は、自由民権家が集まる中心的な場所のひとつだった。また、車人形に「自由」と書かれた衣装を着せるなど、八王子において自由民権運動はかなり盛んだった。神奈川県としては多摩地区がうるさくてしょうがなく、八王子を神奈川県から切り離して東京に編入したという話もあるくらい。「三多摩壮士」と呼ばれた。隣のあきる野市では、五日市憲法を作った自由民権活動家たちがおり、それらと血縁関係にある者が八王子にも多くいて、似たような活動をおこなっていたと思われる。秋山国三郎や鍵水商人などが活動していた。
- ・ 「自由民権運動」と「近代教育」は概念として異質なもの。近代教育とは、近世の寺子屋から発展し、新しい教育制度として小学校ができたという流れ。それと並列に自由民権運動を語るのは違和感がある。自由民権運動は日本全国で盛んだった。特に三多摩では、玉川上水で通船が行われ、コレラなど疫病が流行り、東京都では水道の供給に苦労した側面があり、三多摩の自由民権運動とリンクさせて広まっていった。その時の旗手になったのが吉野泰三などで、地域で言えば町田や三鷹、西多摩などの代表的な運動家を中心だった。残念ながら、八王子には名前の知られている民権家はあまりいない。その意味で異質なものを1つにまとめるというのは無理があるのではないか。むしろ、近代教育の横川榎子の方が、八王子の人物として名前が知られている。9は再検討した方がいいのでは。  
→ (市) 絹の道があったことで横浜から文化が入ってくるのが早かった。早い時期にキリスト教会が建てられたことから分かる。9のストーリーのポイントとしては、八王子には千人同心から続く新しい文化を受け入れる思想が息づいていて、近代に入り、教育や政治の面でも活発な動きを見せたというストーリーになるのではないか。WSの中で、川口地区で自由民権家が活躍していたことを誇りに思う気持ちも挙げられていた。
- ・ 千人同心について、「日光勤番」や「蝦夷地開拓」などの役割だけでなく、むしろ八王子にとって千人同心の意味合いが強いのは、近世の八王子の教養の部分で大きな功績を残した、という点である。
- ・ 由木地区は景観が多く、公園が多いという特徴は理解できる。さらに、大学のまちという特徴もあると思う。由木地区の「ミステリー」とは何か？

→ (市) WS で「生まれ変わりの勝五郎伝説」が話題となった。

- ・ 由木地区は、ニュータウンと自然の対比を伝えた方が良い。ニュータウンは、自然を残す形で計画的に作られている。環境省の「重要里地里山 500」に由木地区（中山）と長池公園の 2 か所が選ばれている。特別に指定されたものをアピールしたほうが良い。浅川溪谷、メタセコイヤの化石も資源に入れてほしい。

→ (市) 関連文化財群のストーリーだけで八王子の歴史文化を網羅的に語るのは難しいと考えており、コラムなどで紹介する方法も考えている。ワークショップに参加をした人は、歴史文化に詳しい人だけではなかったため、日常の暮らしの中で大切にしたいものが多く挙げられたと感じている。湧水や川などの自然環境とのかかわりに強い思いを持っており、また、神社のお祭り、どんと焼きが復活した話などが挙げられた。これらの資源をどのように活用するかについては、WS の全体会でも話題に取り上げていく。

- ・ 都市戦略の観点から言えば、この構想が、八王子の都市としてのステータスを将来に向けてどのように形成していくかという視点が重要。八王子が三多摩を牽引する立場となったのは、織物産業の中心地であったことはもちろん、国立銀行ができたこと、路面電車が走っていたことなどが、当時のステータスを表している。過去のステータスの蓄積があって、八王子の名前が全国区となった。これから将来に向けて、八王子のステータスは何かを考え、イメージすることが、今回の構想の意義でもある。将来の八王子のステータスとは何か？をストーリーの 11 番目として出してはどうか。過去のことばかり捉えていても仕方なく、将来に向けての姿勢を前面に出すのが構想である。

→ (市) 骨格となるご意見を頂いた。歴史の教科書を作るのではなく、この構想がこれからのまちづくりにどのように寄与していくか、という視点をもって作っていききたい。

- ・ 事前アンケートやワークショップの結果をみると、地元の人が価値を感じて守ってきたものが挙げられている。新しい景観、アクティビティーを生み出していくということがこれからの文化につながるのだろうと思う。データベースは地区別に整理されているが、地区別だけでなく八王子市全体、日野や横浜など周辺まで含めた視点、八王子の中心性がわかるような視点も欲しい。市民が何に価値を見出しているか。文化という言葉が出たが、文化の意味を広げていかなければいけない。水文化（用水等）、土木文化、インフラ文化など、データベースの材料を繋げて解釈軸は沢山出てくる。ある程度強引に繋げて提示していくことでイノベートできる。
- ・ 八王子の文化で重要な部分として「織物」は欠かせない。どのような織物だったのかももっと掘り下げてよいのではないか。八王子の次の産業として市民が考えるきっかけになるよう。

→ (市) 市民の活動や、市民が考えるきっかけになることも、構想の目的のひとつで

ある。織物に関して、大学生を巻き込んで様々な活動がおこなわれてきている。織物は終わってしまった産業というイメージが一般的にもたれていそうだが、調査していく中で、今も息づいていることを感じた。

- ・ 電気を通す繊維を作る等、新しいことができるのは、歴史があるからだと考える。それだけの技術を持つ人がいるということ。
- ・ ネクタイなどテキスタイルデザインが世界中に輸出されている点もアピールしてほしい。

→ (市) 八王子のブランディングとして都市戦略の一貫でふるさと納税の返礼品の見直しをおこなった。その中で、八王子の誇れる工芸品とは何かを追求し、120品目を選定、澤井織物なども入っている。

- ・ 地区別の特性については、新市史編さんの際、民俗編として細かく検証したものがあ

る。参考文献として見直してほしい。

→ (市) 可能な限りデータベースに含めている。

- ・ 「織物のまち」という一言で終わってしまうが、八王子には府立学校が3つ出来ていて、織物のまちと関係している。織染学校として、高等教育学校、元の八王子工業高校ができた。第二商業ができ、女学校もでき、ここには、津久井の方からも良家の子女が通ってくるような学校であった。こういった学校があり、郡役所もあったことから、八王子はステータスのあるまちだったことが言える。旧八王子の市街地はそれだけのバックボーンがあり、「織物のまち」という一言ではなかなか伝わらない。もっと、こういった情報を付加して紹介してもらいたい。

- ・ 八王子のコトはじめをデータベース化すると色々分かってくる。明治44年ごろ富士森公園が整備された。八王子図書館、商工会議所(100年以上経過)は、すべて都下で初めて。初めてのものを総ざらいして、それが現在に継承されているか検証しながら未来の八王子のステータスを考えていくことは意味がある。

日本の最高峰の学府であった、明治大学の分校を八王子に作ろうという動きもあった。八王子の持っている特質、生命力、都市としてのステータスが分かってくる。半面、甲武鉄道が明治22年4月、立川までで、八王子までは開通しなかった。立川でストップしてしまう。今の時代も。昭和40年代、高尾一立川間往復の、都心とは隔絶されたダイヤが組まれたこともある。大反対した。八王子まで運転するよう運動した。八王子は地形的に都心から一步離れたところにあり分が悪い。その歴史をくぐって今に至っている。八王子は都心に対して別扱いになっている。本線のはずなのに、ダイヤの組み方からみると立川から先の日野・豊田・八王子は支線。そのような経緯をよく見て、これからの都市づくりをする必要がある。

## (2) 日本遺産認定ストーリーについて(資料2)

- ・ 高尾山の植生について、2行目に「杉の人工林」とあり、次に「独特の自然景観」と

続いて、「人工」と「自然」が重なっていて違和感があるため、「杉の巨木群」という表現の方が良いのではないか。また、「貴重なブナの原生林」の箇所は、高尾山の植生を研究してきた先生方は「原生林」という表現はしていない。色々な手が入っている状態のため、「天然林」という表現している。「天然林」の方が高尾山らしい表現だと思う。

- ・ 誤解招くような表現がある。
- ・ 申請書は最終的にはA4・2枚と聞いている。そぎ落とす作業しかない。どこかを選択集中させるしかない。どこかを切り取って短くするのか、全てを網羅しながらそぎ落とすのか。減らす方向ではあるが、八王子城や戦国の歴史のなかで高尾山との関係性は薄い、「松姫」が入っても良いと思う。
  - (市) 日本遺産登録の資料としては、本日の資料の前にタイトルと200字の要約が入る。タイトルを考える上では、高尾山のどこを見せたいのか明確に打ち出していないと、何も伝わらないと考えている。
  - (市) 文化庁のアドバイスもあったが、網羅的に表現してしまうと内容がぼやけてしまう。ポイントを絞ることが重要で、どこに絞り込めばよいか、検討を進めている。
- ・ 最初にタイトルを決めてしまうやり方もある。個人的に直観的に感じたのは、未来のことを語って、なおかつインバウンドの旅行者にも分かる観点で書くと、「山岳宗教を背景とした持続的生態系と江戸東京の観光文化のバランスを市民が守り続けている稀有な例」と言えるのではないか。タイトルに伝えたいことをしっかり書き、それを語る事実を組み合わせる編集していく作業になると思う。他の地域にも当てはまるようなものではなく、インバウンドがたくさん来ているのは八王子だけとか、里山の生態系とか、八王子だけのものをちりばめる形で、タイトルが付けられると良い。
- ・ 日本遺産の認定には、必ず国指定文化財を入れなければならないとすると、八王子城は必須。徳川の時代、高尾山は特に重要な山ではなかった。それがなぜ、江戸時代に信仰を集めることができたかという点、高尾山が相当努力した。その根拠となったのが、北条氏照が発行した竹林保護のための制札。この制札を抛り所に、徳川幕府に何度もお願いをして、ようやく年貢免除の山にしてもらったという歴史がある。このように北条氏が高尾山を守ったことが、今日につながっており、この歴史が八王子城と高尾山を繋ぎ合わせるヒントになる。北条氏が高尾山を守った本当の目的は信仰のためではなく、防衛のためと推測されるが、それを出してしまうとストーリーにならない可能性がある。寺、神社を保護したことは確かなのでそこはストーリーになると思う。氏照が保護をしたことを由緒にして、高尾山が努力したことを書き込むとよい。ストーリーの構成要素について、時代が逆になっている箇所があるので修正が必要。また、「この城を「八王子城」と名付けた」という表現は、修正が必要。まわりから「～城」と呼ばれるものであり、大名自らが名づけることはない。江戸時代から富士講が流行ったと書かれているが、戦国の時代から、高尾山は富士へ

向かうためのルートであった。裏高尾に富士関という関所があった。富士参詣は江戸時代に始まったわけではなく、中世以来であり、このことも八王子城と高尾山を結びつけるヒントになれば良い。

- ・ 富士関は小仏関所の原点のようなもの。現代の高尾山の山容が見られるようになったのは江戸時代後期、寛政2年～3年、今見られているような権現堂ができた。
- ・ 富士関を作った材木は高尾山で切り出したもの。これも面白い話だと思う。
- ・ 八王子城をいれなければならないということもあるが、斬新さ、希少性、奇抜さ、今も楽しめるか等も認定のポイントであると考えている。市民にとって、高尾山、八王子城はメジャーなところだが、奇抜さをどこに求められるか。膨らませられるところはどこか？と考えていた。ここに書かれている中でとても驚いたのは、大正末期から昭和初期、多摩御陵ができたことで一大観光ブームがこのエリアで起き、宮内庁がいちょう並木を整備したということは、市民にとっても改めて知るところで、斬新に感じるところであり、特徴的な部分として打ち出せるのではないか。  
→ (市) 日本遺産に申請するというのは突き詰めると、どこに訪れてほしいか、どこを見せたいか、どこを楽しんでほしいかを明確にすることだと考えている。八王子城に訪れてほしいが、本当に楽しんでもらえるか、八王子城がストーリーのメインになれるのかという点について迷いがある。気づいたことがあれば、また意見いただきたい。

### (3) その他

- ・ 別紙1-1の分類について、「6有形文化財」に「6-4 墓」と書いてあるが、墓石と墓の下の構造までがセットで、土地に付属するものである。動産ではなく、不動産に当たると考えた方がよい。遺跡や建造物と同じような扱いで考えた方がよい。東京都の旧跡になっている江戸時代の墓がいくつもあり、東京都が旧跡から史跡にしようとした時があったようだが、地上のものと地下のものがセットになっていないということで、旧跡のままにしているものがほとんどであるようである。  
→ (市) 道標、記念碑は？
- ・ 道標、記念碑はその場所にあるべきものだが、地下に構造をもたないものなので動産で良い。

### (4) 閉会

市 次回の検討会は、3月の後半を予定している。

以上